

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 31 日

事業所名 放課後等デイサービス・わくわく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○		グループに分けたり、コーナーを利用したりしている。	利用メンバーによって、活動内容を変えたり、活動場所を分けたりする。
	2	職員の配置数は適切である	○			利用人数や障害特性に応じて支援できるように増員している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		事前に打ち合わせ会議をしている。	支援内容を深めるために支援の仕方を話し合い、徹底する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年一回のアンケートの実施している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間計画を立てて実施している。	全員参加が難しいので、復命を丁寧にしつかりとする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリングでニーズを把握し、計画に活かしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		状況把握はしている。アセスメントツールの使用を検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援者で話し合い決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		支援者で話し合い決めている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの状況に合わせて計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日の様子や反省を踏まえて話し合っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		終了後に話し合うことが難しいので、子どもたちの通所前や事前打ち合わせ会議の中で振り返りの時間を設ける。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時に伝達をしたり、電話連絡を入れたりしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				受け入れをしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		児童発達支援事業所との連絡はできているが、園との連携が図れていない。必要に応じて連携していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		必要に応じて連携していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			昨年度に引き続き、年数回研修の機会を設け、助言をもらった。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		児童館がない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		利用者さんがいる時間帯のことが多く、放デイ連絡協議会の代表者から伝達を受けている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時を有効活用している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		支援者が研修を受ける必要があると感じている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。	変更があった時にはその都度知らせる。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時を利用したり、電話対応したりしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者の希望が少ないので、存在していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		窓口になっている職員を中心に対応している。	必要がある場合は第三者委員に報告をする。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		行事の時の様子を知らせたり、事業所で楽しんでいる遊びの紹介をしたりしている	子どもの写真を掲載した便りを希望される方もいる。(アンケートから)
	35	個人情報に十分注意している	○		職員の誓約書提出を義務づけしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年2回実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人全体でも企画実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		必要なケースには個別支援計画書に記載し、説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事時の場所の確保をし、安全に食べられるようにしている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		起こったことを記録し、伝達している。